

速読と多読で、長文の読解力を向上！

学校名：宇都宮市立豊郷中学校
教科書：NEW HORIZON

学年：第3学年
技能：読むこと

ここがポイント👉

- ① 具体的な目標「1分間に100～120語を読める速度」を掲げる
1分間に100～120語程度の速さで長文を読むことを目標に掲げている。教科書の本文には語数が記入されているため、生徒はどのくらいの時間で読めるようになればよいか分かる。
- ② 各自のペースで練習できる
速度調節バーを使って、ゆっくり～速いまで、練習の速度を変えることができ、自分のペースに合わせて、徐々に速くしていくことで、目標にたどり着ける達成感を味わうことができる。
- ③ 「長文の読解力につながる」ことでやる気になる
音読が好きではない生徒は多いが、間違えてもいいから、分からない単語を予想して発音すればよい、という安心感を与え、長文の読解力が向上することにつながるということを意識させることで、生徒が意欲的に声を出すようになる。

実際の目標

一定のリズムで英文を目で追うことができ、音読しながら長文の大意を把握することができる。

指導上の留意点

分からない発音の単語があっても、止まらずに予想しながら読み続け、一定のリズムを崩さないで読むことを推奨する。「全ての単語が分からなくても読み続けられる力、予測しながら読む力」の育成になる。

実際の場面

1 大意を把握

英文と日本語訳を並べ、音声を聞きながら、大意を把握させた。単に英単語を音声化するだけではなく、意味を理解した上で音読することが大切である。

2 各自でシャドーイング

速さを選択し、自分が読めるスピードから始めた。一度止まってしまっても、途中からまた始めてよい。一定の速さで先に読み進めることを意識させた。読めるようになったら、スピードアップさせた。

3 ペアでシャドーイングを聞かせ合う

ペアで活動することで、アドバイスをしあったり、友達の発音のよさやリズムの取り方などを確認しあったりした。

成果と課題👉

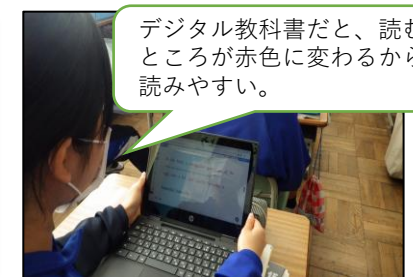
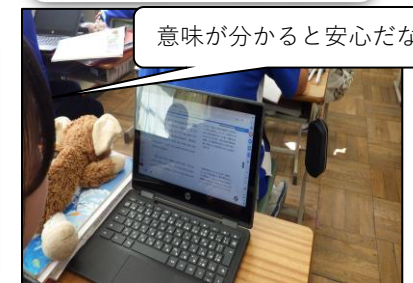
【成果】

- 声に出して読むことへの抵抗感が少なくなるのか、音読練習の声が大きくなった。
- 長文読解の際に、分からない単語が出てきても、意味を予測しながら読み進められるようになったという生徒がいた。

【課題】

- ▲ 十分に練習する時間が取れず、目標の速さに届かないと生徒が不安になる様子が見られた。家庭学習でも推奨しているが、自宅で取り組む生徒は少ない。十分な練習回数を重ね、習熟を図り、自信をもって音読できるよう、指導を続けたい。

実際の様子



〇〇さんの発音、きれいだな。まねしてみよう。



やる気になる！ 上手になる！ 音読ルーティーン

学校名：宇都宮市立豊郷中学校
教科書：NEW HORIZON

学年：第2学年
技能：読むこと

ここがポイント

GELP(英語アプリ)

① 目標と、それに対する自分の現在地を意識させる

最初に、「上手に読めなくてもよい」と伝え、目標となる音声に合わせて読ませることで、今の自分とのギャップに気づかせ、音読活動に対するモチベーションを高める。

② デジタル教科書の多様なメニューから選び、ひとりで取り組める

全体学習と個別学習を組み合わせ、生徒の目標達成を支援する。自分が取り組みやすい方法、今の自分に必要な方法をそれぞれが選べるように多くの選択肢を用意する。

③ 「もう1回読みたい！」と思わせる

AIを活用して成長を可視化することで、継続的なモチベーションの向上につなげる。

目標

文章の目的と意味内容を理解した上で、英語らしく、内容が伝わる読み方で音読することができる。

指導上の留意点

- 音読活動の前に、対象の文章が伝えている内容やそれを伝えたい相手を十分に確認させる。
- 生徒の「もう1回やりたい！」を叶えられるよう、十分な活動時間を設定するか、家庭学習メニューを用意する。

活動内容

1 自分の力を知る

- 「挫折覚悟の一読み」【全体】【オーバーラッピング】
生徒は教師が再生する音声(速度1.0)に合わせて、デジタル教科書／紙の教科書の文字を見ながら音読する。
- 「GELPチャレンジ①」【個人】
音声のサポートなしで音読する。AIが「発音」「流暢さ」「正確さ」を踏まえた「伝わりやすさ」のスコアを算出する。

2 自分の力を高める

- 「文字ありシャドーイング」【全体】【シャドーイング】
生徒は教師が再生する音声(速度0.8)を追いかけてデジタル教科書／紙の教科書の文字を見ながら音読する。
- 「文字なしシャドーイング」【全体】【シャドーイング】
生徒は教師が再生する音声(速度1.0)を追いかけてデジタル教科書／紙の教科書の文字を見ながら音読する。
- 「カスタム読み」【個人】【3分 ※音量によって変える】
生徒はデジタル教科書／紙の教科書を使い、好きな方法で練習
・音声の再生速度の選択 ・日本語訳の表示 ・スラッシュリーディング
・ロールプレイ・アフレコ ・マスク読み・リピート読み・通訳読み など
- 「文字なしシャドーイング」【全体】【シャドーイング】
生徒は教師が再生する音声(速度1.0)を追いかけて文字を見ずに発声する。
- 「再現読み」【全体】【文字なしオーバーラッピング】+【マスク読み】
生徒はスクリーンに表示された日本語訳だけを見ながら、教師の再生する音声(速度1.0)に合わせて発声する。
※ 音声なしにも挑戦させてみたい。

3 自分の力を試す

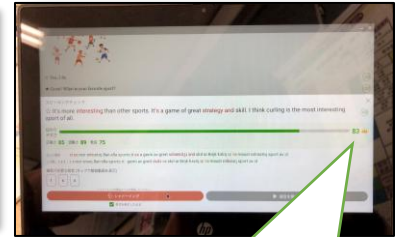
- 「渾身の一読み」【全体】【オーバーラッピング】
生徒は教師が再生する音声(速度1.0)に合わせてデジタル教科書／紙の教科書の文字を見ながら音読する。
- 「GELPチャレンジ②」【個人】
音声のサポートなしで音読する。AIが「発音」「流暢さ」「正確さ」を踏まえた「伝わりやすさ」のスコアを算出する。
(2)よりハイスコアを獲得することで自信がつく。

成果と課題

【成果】 AIによる評価は意欲的な反復練習を促し、デジタル教科書は個別最適な学びを実現する有効な手段の一つであることが分かった。

【課題】 新しい学び方に対する生徒の『慣れ』と『自信』の不足にある。安心して活動に取り組める環境づくりと指導を続けていきたい。

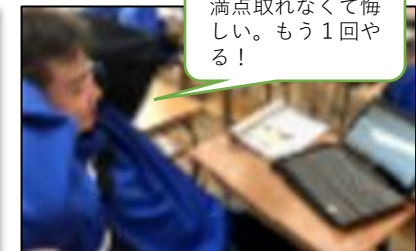
活動の様子



100点満点で採点。自主的に録音された自分の音声を聞いて振り返る生徒もいた。



速度1.2で回数を多く読んだり、1つの単語の音声を何度も聞き、正しく発音しようとしていたり、それぞれが自分に合う方法を選んでいる。



満点取れなくて悔しい。もう1回やる！

学習者用デジタル教科書を活用した音読練習

学校名：日光市立東原中学校
教科書：NEW HORIZON

学年：第2学年
技能：話すこと

学習者用デジタル教科書

iPad メモアプリ

GELP(英語アプリ)

ここがポイント👉

① 学習者用デジタル教科書を音読練習で活用

※ 音読指導の際、生徒が学習者用デジタル教科書で発音等を確認する時間を設ける。

② 「メモ」アプリで自分の音読を文字化

③ 正しく認識しなかった語句を中心に、再度デジタル教科書で音読練習

④ 「GELP」の音読課題を利用し、音読発表を提出

実際の目標

デジタル教科書を活用し、正しい音読を身につける。

指導上の留意点

- ・ 生徒のつまづきを把握し、個別に声かけや支援を行う。
- ・ 「できたこと」に注目し、前向きなフィードバックをする。

実際の場面

① 教師の後に続いてリピート練習を行い、その後、デジタル教科書での音読練習

※ 練習の仕方は、個人で工夫しながら行っている。

② 一人一台端末のメモアプリを使って、自分の音読を可視化することで、正しい発音ができているかを確認する。

③ 正しく認識しなかった単語を中心に、再度デジタル教科書で音読練習をする。

→ 練習の成果を確認するために、「GELP」での音読課題を提出

成果と課題👉

【成果】

- メモアプリで自分の発音を可視化することができるので、積極的に音読練習を行うようになった。
- 最終的に「GELP」での音読課題を提出するので、生徒が前向きに練習に取り組んでいる。

【課題】

- ▲ 通信状況が不安定であるため、活動中に接続が途切れることが多い。
- ▲ 今後は、「GELP」を個別学習に取り入れていきたい。

実際の様子



AI英語アプリを活用した英作文の練習

学校名： 野木町立野木中学校
教科書： Sunshine

学年： 第1学年、第3学年
技能： 書くこと

ここがポイント👉

GELP(英語アプリ)自習機能ライティング

○ スモールトークを行った後、それに合う内容をGELPのライティングで英作文を行った。(エッセイや2文英作文、3文英作文)

- ペアで会話をし、表現を確認してから英作文を行うことで、スムーズに取り組むことができた。
- 添削機能のおかげですぐに自分のミスがわかり、正しい表現を学ぶことができた。
- 英作文の機能を意識し、できるだけ多くの英文を書く生徒が増えた。
- 英単語の機能を定期的に活用し、単語力の向上を目指した。TOEICでよく使われる単語など、教科書以外の英語に慣れ親しむ機会を設けたことで、生徒の意識が高まった。

実際の目標

- ・ 好きな曜日について、理由も入れて表現することができる。(第1学年)
- ・ 仮定法を使って「もしタイムマシンがあったら、過去に行くか未来に行くか」を表現することができる。(第3学年)

指導上の留意点

- ・ 間違えてもよいので、なるべく多くの英文を書くようにさせる。
- ・ 机間指導を行い、つまづいている生徒に声をかけミスを把握する。
- ・ 既習の表現(仮定法、becauseの文)を使うように指導する。

実際の場面

① 第1学年の授業では、授業の始めにスモールトークを行った。

- ・ 既習事項の”Why?” ”Because～.”を使うようにアドバイスを入れた後にペアを代えて、再度スモールトークを行った。
- ・ GELPのライティング機能を利用し、書く活動を行った。
- ・ 前もって一覧を確認し、スモールトークのトピックに入れるようにした。

② 第3学年の授業では、始めに仮定法の表現を確認した。

- ・ 「もしもタイムマシンがあったら」という内容でペアで対話し、苦手な生徒でも言えるように練習した。
- ・ GELPのライティング機能で書く活動を行い、添削機能を利用した。レコメンド表現などを熱心に読む姿が見られた。

成果と課題👉

【成果】

- GELPを活用することで、英作文の後すぐに添削してもらえるので、自分の力を把握することができる。
- GELPには、ライティング・スピーキング・リスニングなど様々なコンテンツがあり、自分のペースで進めることができることや、同じ問題を繰り返し行えることから、意欲的に学習に取り組む生徒が多くなった。

【課題】

- ▲ 限られた授業時間の中で、教科書の内容に組み込んで活用することが難しい。

実際の様子



学習者用デジタル教科書を活用し、表現力を向上！

学校名： 野木町立野木第二中学校
教科書： Sunshine

学年： 第1学年
技能： 話すこと

学習者用デジタル教科書

Sky menu

Google翻訳

ここがポイント

① 学習者用デジタル教科書で発音チェック

音読指導の際、生徒が学習者用デジタル教科書で発音等を確認する時間を設定した。

② Google翻訳で単語を検索

未習事項の表現を検索する時間を設定した。

③ 野木町が導入しているSky menuの利用

「発表ノート」を活用し、資料の配付や課題等の提出を行っている。

実際の目標

今まで習った語句を使って、会話の続きを表現することができる。

指導上の留意点

既習事項を使って表現するよう助言する。

実際の場面

① Scenes for Basic Dialog

- ・ 全体で動画を見て大まかな内容を把握
- ・ ALTや教員の後に続いて音読練習
- ・ 個人またはペアで発音の確認や音読練習

② 会話の続きを考える

- ・ 最初は個人検討
- ・ 個人検討後、ペアでの共有

③ 動画を撮影して、Sky menuで提出

- ・ ペアで動画の撮影
- ・ 録画したデータを視聴し、会話の確認
- ・ 必要に応じて再度撮影

成果と課題

【成果】

- 字幕ありやなしを選択することができ、さらに動画を見ることができるので、内容を理解しやすい。
- 動画を撮影して提出することで、活動に対してモチベーションが上がっている。

【課題】

- ▲ マイク付きのヘッドホンを使用しているが、周囲の声を拾ってしまうことがある。
- ▲ ネットに繋がらないときの対応が困難であること。

実際の様子



学習者用デジタル教科書を活用したリーディング活動とアプリを活用したライティング活動

学校名：佐野市立北中学校
教科書：NEW CROWN

学年：第3学年
技能：読むこと、書くこと

ロイロノート

GELP(英語アプリ)

学習者用デジタル教科書

ここがポイント👉

① 学習者用デジタル教科書でリーディング活動を個別最適化

本文の内容に関するクイズに答えるために、個人で読み取る時間を設定した。

② 本文の内容理解はゲーム形式で実施

生徒の意欲につながるように、ロイロノートのゲームモードで実施した。

③ ライティング活動でアプリとロイロノートを活用

ライティング→アプリで添削→間違いの分析をする活動全体を通して、ロイロノートの共有ノートを用いて、その場で生徒の取組を把握し助言できるようにした。

実際の目標

本文の内容を捉え、問いに対する自分の考えや意見を英語で書くことができる。

指導上の留意点

- ・ Can-doリストの「書くこと」の目標を確認し、安易に翻訳サイトや生成AIを使わないよう指導する。
- ・ 各自の活動の様子を見取り、全体指導や個別指導に生かす。

実際の場面

① 学習者用デジタル教科書でリーディング活動を個別最適化

→ リーディング活動の後に、本文の内容に関するクイズが行われるので、その問題に答えるために内容を読み取っている。その際、音声や映像を参考にしながら読む生徒や、文字を拡大して読む生徒がいた。

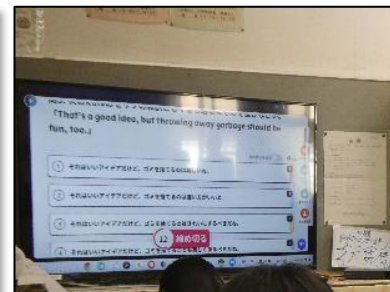
② 本文の内容理解はゲーム形式で実施

→ ロイロノートのテストカードにあるゲームモードを利用して、本文の内容に関するクイズを4択で出題した。
→ 正解・不正解がその場ですぐに分かることに加え、問題毎と全問とで、正解者のランキングが出ることから、生徒たちは速く正確に答えようという意欲をもって取り組んでいた。

③ ライティング活動でアプリとロイロノートを活用

→ 生徒が書いた英文をアプリで添削し、その後、どこをどのように訂正されたのか、分析する活動を行った。
→ 生徒は、文法事項に関するエラーや、スペルミス等についてまとめていた。また、「同じミスを繰り返さないように気を付けたい」という内容の振り返りを書く生徒もいた。

実際の様子



成果と課題👉

【成果】

- ほぼ毎時間学習者用デジタル教科書を活用してきたため、生徒が使い慣れてきた。
- 「書くこと」の目標を確認したことで、翻訳サイトや生成AIに頼らず、自分の力で英文を書こうとする姿や自分の誤りから学ぼうとする姿が見られた。

【課題】

- ▲ 意見文を内容面から推敲する活動をどのように組み込むかが課題である。

学習者用デジタル教科書を活用したリテリング練習

学校名：栃木県立矢板東高等学校附属中学校
教科書：Here We Go！

学年：第3学年
技能：話すこと

学習者用デジタル教科書

Teams

Google翻訳

ここがポイント👉

① 学習者用デジタル教科書を音読練習に活用

→ 毎回の音読指導の際、生徒が学習者用デジタル教科書で発音やイントネーション等を確認する時間を設けた。

② Teamsで音読課題配信

→ 音読評価機能を活用した課題を配信し、AIが音読の正確性を採点評価した。

③ 学習者用デジタル教科書でリテリング練習

→ リテリング画面を開き個別練習→ペア練習の時間を確保した。

④ Google翻訳に音声入力

→ Google翻訳で自分が表現したい内容が相手に伝えられているか確認した。

実際の目標

教科書の内容をリテリングできる。

指導上の留意点

- ・ Teamsの音読課題で、教師が生徒のつまづきを把握し、次回の練習につなげる。
- ・ リテリング練習の際に、短い表現方法でよいことや友達の表現方法を参考にすることを伝える。

実際の場面

① 学習者用デジタル教科書を音読練習に活用

→ 全体で練習後、各自の一人一台端末を使用し、音読練習を行った。発音確認、スピードを変えて練習など、生徒が判断して取り組んだ。教科書の内容により練習・確認時間を3分～5分程度設けた。その後、ペア練習、全体練習につなげた。

② Teamsで音読課題配信

→ Teamsの音読評価機能を生かした音読課題を出題した。間違った発音の単語が自動的にピックアップされるので、音読のやり直しができる。期限を過ぎても音読課題の提出が可能である。

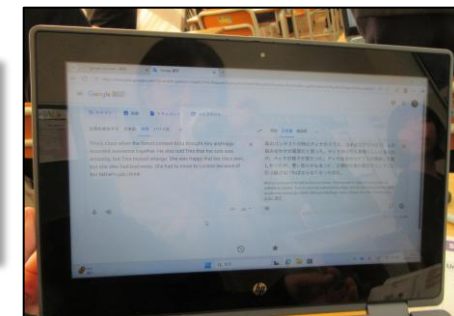
③ 学習者用デジタル教科書でリテリング練習

→ 話すことを整理する時間を設けた後、一人一台端末を互いに見せ合いながらリテリング練習を行った。一人一台端末だけを持って移動するので、自分の知っている単語や表現を使って相手に伝えようとする姿が見られた。また、友達が表現した内容を参考にしている姿も見られた。

④ Google翻訳

→ 音声入力機能を使い、自分の話しているリテリングの内容がまとまりのあるものか、また表現方法が相手に伝えられているかを確認した。

実際の様子



成果と課題

【成果】

- 音読練習は、自分に適した速さに調節できること、発音の確認もできることから、音読に苦手意識のある生徒には安心して取り組むことができた。
- Teamsの音読評価機能は、生徒が読み間違えた単語の練習機能がついていること、またAIが評価した結果は生徒の自信につながったことが効果的であった。
- タブレット画面を見せながらのリテリングは、教科書に記載されている表現を用いることができないため、生徒が相手に伝えるために、必要な説明を加えたり、言葉を補おうと考えたりしながら話す姿が見られた。

【課題】

- ▲ 一人一台端末の起動に時間がかかりすぎてしまう。
- ▲ タブレットの活用時間が難しいと感じられる。
- ▲ 周りの生徒の様子を意識しすぎて音読練習の始まりが遅くなる傾向がある。そのため、一人一台端末を活用しない方が限られた時間の中で音読回数が増えるのではないかと思われる。
- ▲ Teamsの音読評価機能は、会話文など感情をこめて読む音読には不向きかもしれないと感じられる。